

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3474550017
法人名	フジ総合印刷株式会社
事業所名	グループホーム ゆうゆう
所在地	福山市新市町大字新市888番地 (電 話) 0847-51-3300
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 19 年 9 月 12 日

【情報提供票より】(19 年 8 月 15 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 11 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 8 人 非常勤 2 人 常勤換算 8.3 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 2 階建ての 階 ~ 2 階部分
------	---------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4)利用者の概要(8 月 15 日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	85.6 歳	最低 71 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	瀬尾医院、おきとう歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に公的機関、商店などがあり、立地条件の良い環境の中で落ち着いた生活をされている。園芸や買い物、散歩など閉じこもらないよう配慮し、軽い体操など日課として取り入れ、身体的機能の低下を防ぐ取り組みがされている。また、利用者との対話を大切に、自分のペースで自由に感じるままに一人ひとりのニーズに応じた支援をされ、家族のように喜怒哀楽を共有できる信頼関係づくりに努め、併設のデイサービスと常に交流を持ち、お互いに支え合い、地域の中で穏やかな生活ができるよう取り組まれていると共に、事業所独自の理念を全職員で作りに上げ、地域に根ざしたホームとなるよう努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	法人としての理念の他に、事業所独自の理念を設定し、地域に根ざしたものに改善されている。緊急時の取り組みも消防訓練時に救命救急の体験学習をされるなど改善されていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で行い、改善点についてはカンファレンスで検討し、実践して行くよう取り組まれていた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年12月の開催に向け、現在準備中である。行政を含め地域への理解、交流促進のために、事業所の取り組み状況や実態について説明し、さまざまな立場の人との意見交換を行い、地域、行政との関係づくりに努められ、サービスの質の向上に活かされるような運営推進会議となるよう期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会が毎月開催され、意見等を聴く場を設けている。また、アンケート調査を行い、問題点があった場合はカンファレンスの中で早期解決に向け取り組まれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していないが、地域で行われる行事には参加している。事業所での行事にも参加を呼びかけ、事業所の存在や理解を深めてもらうよう取り組んでいる。保育所も近いので園児の訪問も受け入れている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念と共に、全職員で作上げた地域及び利用者に関する理念を作成している。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で作成した理念を、カンファレンスやミーティングなどで確認し合い、実践に向けた取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の清掃に参加したり、事業所が行う行事や保育所との交流、また、事業所の玄関前に黒板を置き、季節に応じた内容で今日の一言を表示し、地域の方々に伝えるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義、目的を全職員に伝え、前向きに取り組まれている。外部評価の結果は、ミーティングなどの機会に報告し、改善に向けた具体案の検討を行い、実践に繋げる努力をされている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、準備中である。市の参加の同意は得ている。		2007年12月の発足に向け準備がされており、地域と一体的な取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が行う行事に講師として参加したり、問題点がある場合は、相談したりし、常に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の家族会で、利用者一人ひとりの家族に暮らしぶりや健康状態を報告している。金銭出納帳もサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会、また、アンケートにより意見、要望を聴取し、その内容をカンファレンスの中で検討し反映するよう取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職に伴う交代があった場合は、新任職員と共に施設長、管理者等でフォローを行い、利用者のダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では、研修内容のレポートを作成し、カンファレンスの中で周知を図っている。内部研修は、定期的な研修とは別に設定し研修を深めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議が、毎月行われており、交流を図りながらサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネや職員が事前に面談を行い、本人、家族の要望を把握すると共に、不安感を取り除くため体験入所をしてもらい、事業所の雰囲気に少しずつ馴染んでもらえるような取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所のペースにならないように気をつけ、家族のように寄り添い、お互いに支え合う関係づくりをしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの表情や会話の中から、要望等を把握するように努めている。困難な方には、家族と相談しながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の家族会で、ケアについて意見を聴取し、カンファレンスや全体会議の中で話し合い、それぞれの意見が反映された計画づくりに努めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しを行っている。利用者の変化に伴う見直しはその都度行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医や協力医への受診など、家族の状況や要望に応じて柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望する医療機関を、主治医として対応している。また、協力医などへも状況に応じた受診ができる取り組みもしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応できる最大限のケアについての説明を行い、同意を得ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法等について理解されているので、言葉かけや対応にも配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、利用者のペースを大切に、急がないように配慮している。また、それぞれの日々の要望等を聞き、散歩、買い物など希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりやおやつづくりなど、利用者と職員と一緒に楽しみながらしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決められた時間帯の中で入浴されている。また、入浴回数を決めることなく要望に応じ、毎日でも入浴が楽しめるような支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、それぞれの力が発揮できるような場面づくりをしている。食事の準備や後片付け、野菜づくりなど、出来そうなことは職員と共に楽しみながら行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物など、また、日帰り旅行やドライブなどで気分転換を図ったりして、楽しみ事や気晴らしの支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所が2階にあり、建物の構造上階段の出入り口は死角となるため、安全確保上やむを得ず施錠をしているが、エレベーターは自由に使用出来るようになっている。また、階段の施錠については、利用者、家族等に十分説明し、同意を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対処する役割は決められている。消防署の指導を受けた防災訓練もされている。		事業所は2階に位置し、火災等の訓練はされているが、災害時の対応は、近隣など地域の人々の協力は欠かせない。より地域の協力が得られるよう取組む必要がある。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューについては、併設の事業所の栄養士に、栄養バランス等のアドバイスを得ている。また、水分摂取量も一日1500ccを目標に、不足がちな利用者には工夫をしている。		
mokuhyouni					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間である、台所、食堂などは生活感があり、居心地も良く不快な採光や音もないよう配慮されているが、玄関、ロビーは少し簡素で飾り気が少ない。		玄関、ロビーに、季節を感じるお花や利用者の作品等を飾り、家庭的な温もりがある演出が望まれる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人の意向にあった居室作りになっている。		

自己評価票

(認知症グループホーム)

広島県認定 地域密着型サービス外部評価機関
特定非営利活動法人 あしすと

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	新市介護福祉サービス ゆうゆう
(ユニット名)	グループホーム ゆうゆう
所在地 (県・市町村名)	広島県福山市新市町新市888
記入者名 (管理者)	近藤 ひとみ
記入日	平成 19年 8月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所全体の理念に合わせ、グループホーム独自の理念を全職員で決め、行動理念としている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・事業所内に掲示するとともに、日々のミーティング・カンファレンス時に声かけ、意識確認など行えている。		・日々の申し送りやカンファレンス時に全員で理念を唱和するなどして理念の実現に向けて継続して取り組んでいく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・事業所全体の理念・グループホームの理念を玄関・リビングに掲示している。		・家族様には家族会で・近隣住民の方には機会を見つけて説明を行い、理解を求めていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・日常的に買い物に出かけ、朝夕散歩中近隣の方たちと挨拶を交わしたり、会話をしている。又、町内会や老人会の施設見学時には気軽に来所していただけるようお願いをしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の小学校のコミュニティールームに参加し、近隣の方々のとの交流を図っている。また、地域の溝掃除などの清掃活動にも参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域の老人会、婦人会等からの要請を受けて、施設の見学、介護保険の説明等を必要に応じて行っている。		・介護相談や介護教室など、今後、地域住民を対象としたものを開催していきたいと考えている。現在、検討段階にあり、開催時期は未定であるが、出来るだけ早期に実現できるよう努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価・サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、前向きに取り組んでいくように心掛けている。外部評価の結果は、ミーティングなどの機会に報告し、改善に向けての具体案の検討や実践につなげるための努力を行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・町内会長、民生委員等に参加の依頼をしているが、まだ実施には至っていない現状である。地域包括支援センター新市の職員の方からは「参加は困難である」と言われている。		・年内の運営推進会議の開催を予定しており、今後、地域住民代表、市の方と調整を進め、本年中の開催の実現を目指す。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・毎週市役所で行われる地域ケア会議に参加している。		・市役所支所と隣接していることもあり、今後、運営推進会議と共に各種行事の案内も積極的に持参し参加の依頼をして行く。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・現在までのところ対象のケースがなく行っていない状態である。管理者が、対応を行う体制が出来ている。また、スタッフにも管理者から説明を行っており、スタッフは内容を理解している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修会への参加、事業所内での勉強会などを行い、高齢者虐待防止に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		・虐待の防止に向けて、継続して勉強の場を設定し、事例検討等の機会を継続して設ける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・時間をかけ、丁寧に説明を行っている。特に、重度化や看取りについての対応・医療連携体制については詳しく説明を行い、同意を得るようにしている。契約解除の際にも同様に時間をかけて説明などを行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・担当スタッフを決めており、毎月の家族会等で定期的に御本人ご家族とゆっくり話をする機会を設けている。意見・苦情などが出た際には、適宜、全職員で話し合いを行い、日々のケアに反映している。		・苦情対応の窓口が行政窓口等にもあることを重要事項説明書に記載しており、家族会等の機会に継続して伝える。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月、家族会を行っており、その際に日常生活の様子、健康状態についての説明、金銭出納帳のチェックを行ってもらっている。職員の異動については、その都度説明を行い、理解を頂いている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族様には、家族会の際などに常にお聞きし、何でも伝えてもらえるような関係作りに留意している。出された意見については、ミーティング時に話し合い、反映させている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に2回～3回のミーティング・カンファレンスを行い、意見を聞くようにしている。また、日ごろより、スタッフとコミュニケーションを密に図るよう心掛けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・入居者の方の意思決定による自由な暮らしを出来る限り支えられるよう、入居者の方の状況に合わせたローテーションを組んでいる。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・入居者の方とスタッフの信頼関係を築くためにも、顔なじみの職員が対応することが重要であると考えており、異動や退職などやむを得ない場合も、その時期や引継ぎ面での最善の努力を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・事業所外で開催される研修会・勉強会には、なるべく多くの職員が受講できるよう勤務表の作成など行っている。また、それらの研修報告をカンファレンス・全体会議時に行い、スタッフ全員での学習を行えるようにしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・関連の事業所などと交流を持つことによって、サービスの向上を目指している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・定期的に職員との面談を行い、職員のストレスや悩み、想いを聞き、把握するよう努めている。休憩室を確保し、職員同士の人間関係を作るようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・事業所として、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。現場からの声にも、すぐに対応を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居の相談があった際には、必ず本人様に会って心身の状態や本人様の想いに向き合い、職員が受け入れてもらえるような関係作りに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・家族様が困っていること、不安に感じていることなどをよく聴き、どのような対応が出来るかなど、事前に話し合いを行っている。本人様だけではなく、家族様の悩みなども聞くように心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時、本人様や家族様の思い、状況を聞き、改善に向けた支援の提案、複数の選択肢を提示し共に検討をし、支援を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前には必ず本人様に面会を行った上で入居という形をとっている。やむを得ず、すぐに入居になった場合は、家族様やそれまで関わっていた関係者の方に面会に来ていただき、安心感を持ってもらうように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・スタッフは、生活を入居者の方と行い、お互いに支えあうことの重要性を理解し、日々の業務にあたっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族会の際に日々の状況を詳しく家族様に伝えるようにしている。家族様からの要望も、積極的に聞くようにし、本人様を支えていくための関係作りを行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族会への参加の呼びかけ、面会に来ていただくなど、関係性が途切れないように留意している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族様より、面会制限のない方については、なじみの知人・友人との面会が自由に行えるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・日々の生活の中の役割活動を通して、入居者同士の関係が円滑に行えるよう働きかけを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・特記事項なし		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で、しっかりと話を行い、個々の要望などを聞き取るよう努めている。また、意思疎通困難な方には、家族様より情報を得るようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人様・家族様に、どのような生活を送って来られたかなど聞いている。		・今後、今以上に、個々の方のアセスメントをしっかりと行い、支援に結びつけていかないといけないと思う。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・職員は、入居者の方の出来ることを把握し、個々のペースに合わせた支援を行うよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・毎月1回家族会を開催しておりその場で入居者様の状態をご家族に伝えるとともに、ご家族、ご本人の希望を確認するようにしている。		・介護計画書の様式の見直しを行っている状態。今後は、本人様、家族様の意見や要望などがより反映できる書式を作成していきたいと思っている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3ヶ月に1度の見直しを行っている。状態が変化した場合は、随時見直し・変更などを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・入居者の方の状態・状況は、個々の介護日誌に記載し、職員間の情報共有を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・併設のデイサービスなどと協同し、柔軟な対応が行えるよう支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・陶芸や紙芝居、リハビリ体操のボランティア等に定期的に来所して頂いている。		・地域資源の有効活用が出来るよう、働きかけを行っていかないといけないと感じる。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			・現在のところ行ってないが、必要に応じてその都度、検討・対応を行っていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・市・地域包括支援センターなどに、働きかけてはいるが、協力が得られない現状である。		・地域包括支援センターの体制が整い、協力が得られる体制になるのを待って協議する。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・御本人や御家族が希望される医院・病院を主治医として対応を行っており、必要に応じて往診もしていただけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・協力医はあるが、認知症専門医ではなく、今後、早急に相談できる医師の確保を行っていかないといけないと感じている。		・地域の中で、認知症専門医を探す営みを行っていかないといけない。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・非常勤ではあるが、同一施設内に看護師がおり、入居者の方の健康チェック・処置などを行っている。また、緊急時には、その看護師に24時間体制で相談できる体制をとっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院によるダメージを極力防ぐ為に、病院関係者との話し合いをする機会を早期に持ち、事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるよう努めている。また、家族様とも情報交換しながら、早期の退院支援に結び付けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化に伴う意志確認書を作成し、事業所が対応しうる最大限のケアについての説明を行い、同意を得ている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・入居時・家族会の際に、家族様の意向などを聞き取り、ターミナル期に向けた話し合いを行っている。当施設で出来ること・出来ないことについても説明を行い、同意を得た上で、ターミナル期に備え、準備を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・他の事業所への転居・入院などの際には、情報提供書を手渡すと共に、情報交換を行うなど、住み替えによるダメージを最小限に抑えるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・入居者の方の個性を尊重し、プライバシーを損なわない対応を職員全員で取り組んでいる。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>・複数の選択肢を提案して、入居者の方が自己決定を行える場面を作っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・基本的な1日の流れは決まっているが、時間を区切った過ごし方はせず、あくまでも、入居者の方の状況・状態に合わせて生活を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>・入居者の方と一緒に買い物に出かけ、自分の好みの服などを購入していただけるよう支援している。また、理髪は、月に1度、毛染めと共に行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・おやつ作り・夕食作りは、入居者の方とスタッフが一緒に行ってる。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>・買い物に出かけた際、欲しいものなど伺い、支援を行っている。喫煙・飲酒については、希望に応じて対応を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・一人一人の排泄パターンを把握し、適宜、声かけ・誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・毎日の入浴を行っており、入居者の方の要望に合わせて入浴支援を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中の活動やレクリエーションへの参加を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人一人の方の睡眠パターンを把握し、対応を行うようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・畑などの草取り・苗植えをしてもらう等の、入居者様一人一人に合った支援を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理が困難な為、家族様よりお金を預かり、施設内で管理している。		・今後、対象者の方に合わせて適宜、支援を行っていききたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日には、日常的に散歩や買い物などに出かけ、外出の機会が増えるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・現在のところ、そういった要望などはないが、スタッフの層の厚い日には、入居者の方とスタッフが1対1にて、外出・外食を行うなど、個別の支援を行っている。		・今後、必要に応じて対応を行っていく準備を行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話連絡の要望がある場合は、入居者の方の希望に応じて支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間は定めておらず、本人様の居室への宿泊についても応じている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・現在までの所、身体拘束は行っていない。		・定期的に、身体拘束に関する勉強会を行い、今後も、身体拘束を行わないケアを目指して行きたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・建物の構造上、死角になる場所（階段など）には、安全確保のため、やむを得ず施錠を行っているが、その旨は、入居時に、説明を行い、同意を得ている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は、入居者の方と同じ空間で記録等行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、2時間おきに状況を確認すると共に、起きてこられた際には、すぐに対応できるよう努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・入居者の方の状況に合わせながら、保管・管理を行っている。刃物などは、入居者の方の手の届かない、目につきにくい場所に保管を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・一人一人の方の状態から予測される危険を検討し、事故を防ぐための工夫に取り組み、誤嚥のリスクの高い方には、必ず見守りを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・全ての職員が救命・救急の講習を受け、定期的には勉強会も行っている。また、夜間の緊急時対応のマニュアルを作成しフロアに掲示している。		・救命講習等を定期的受講するとともに、社内で急変や事故発生時の対応について継続して研修を行う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・日常的に入居者の方、スタッフ共に、火災時の行動について話しをしている。		・今後、地域の協力体制の確保・確立を行っていかないといけない。地域の方とのつながりも含めて行っていく必要がある。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・毎月の家族会の際に家族の方に説明を行っている。起こりうるさまざまなリスクについての説明を行い、本人様にとって抑圧感のない暮らしを大切にしたい具体的な話し合いを家族様と行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・普段の状況をスタッフは把握しており、少しでも異変が見られた際には、バイタル測定を行い、記録に残し、状況に応じて、医療機関への相談・受診を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬ファイルを作成・処方箋のコピーを配薬ケースに貼り、職員が内容を把握できるようにしている。		・入居者の病気や、薬の勉強をする事により日々の症状の変化を見逃さないよう努め、健康状態の維持を図る。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・食事作り・おやつ作りなどには、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また、散歩・家事活動など身体を動かす機会を設け、自然排便を促すよう努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の歯磨きの声かけを行い、入居者の方の力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝時には、義歯の洗浄を行っている。		・定期的に歯科医院の訪問診察を受けており、口腔内の状態のチェックを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事を毎回介護日誌に記録し、スタッフ全員が入居者の方のおおまかな食事摂取の状況を把握している。また、食事内容を写真に撮り、残している。		・水分摂取量の把握ができていない入居者様がいらっしゃるのでは、全員把握できるように介護日誌の書式を見直す。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・入居者様、スタッフ共に、インフルエンザ予防接種を受けている。また、起こりうる感染症について全職員で学習し、予防・対策に努めている。感染症予防として、ペーパータオルを使用している。		・感染症についての各種マニュアルの整備が充分とはいえない現状にある。今後、マニュアルの作成と共に、スタッフの勉強会も行っていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板・布巾・食器を毎回漂白し、清潔を心がけている。また、新鮮で安全な食材を提供する為に、買い物はこまめに行い買いだめをしないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・入り口に案内板を設置し、プランターなど置き季節感を演出している。		・案内板の内容を毎日書き換え近隣の方に興味を持って貰えるよう工夫をしている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・茶碗を洗う音・ご飯の炊ける匂い・季節に応じた食べ物(おはぎ作り・御節料理など)、五感や季節を意識的に取り入れる工夫をしている。		
82	共用空間の中にも、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・廊下に長いすを置いたり、畳の空間を作り、また、リビング内にはソファを設置し、個人で過ごしたり、仲の良い方と過ごせるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたもの・なじみのものがあることにより安心して生活していただけることにつながることを説明を行い、在宅で利用していたものを出来るだけ持ってきていただくようお願いをしている。		・随時、家族様への説明は行っているが、なかなか進行していない現状がある。今後も、重要性の説明を継続的に行い、理解を深めていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・室温については、温度計と入居者の方の様子を見ながら調整を行っている。また、空気の入替えを2時間ごとに行い、トイレについては、換気扇と消臭剤にて悪臭が出ないように工夫を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入居者の方の状態に合わせて、手すりや浴室・トイレ・廊下など設計されている。		・シンクの高さ、収納棚の高さなど改善・改修困難なものもあるが、それらについては、スタッフが安全を考慮しながら支援を行っている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・一人一人の入居者の方の状態に応じた環境整備を行うように努めている。また、日常業務の中で、スタッフ間が個々の方々の状況についてしっかりと話し合いを行い、安心して生活していただけるよう努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・屋外に畑のスペースを確保し、花・野菜作りなど、入居者の方が日常的に楽しみながら活動が行える環境を作っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

黒板を玄関前に設置し、今日の一言などをスタッフが毎日書き換え掲示している。地域との交流窓口として継続を行って行きたい。

毎日、決めた時間に「玄米にぎにぎ体操」を行い、入居者の方にも喜ばれている。

スタッフの人員が多い日には、スタッフが入居者様と1対1の対応にて、外出・外食など行い、

入居者様とスタッフがゆっくりとした時間を過ごせるようにしている。